

賀茂地域の魅力ある文化

(未来を切り拓くDream授業・賀茂版)

中学生がまとめた事前課題から一部抜粋

了仙寺（下田市）

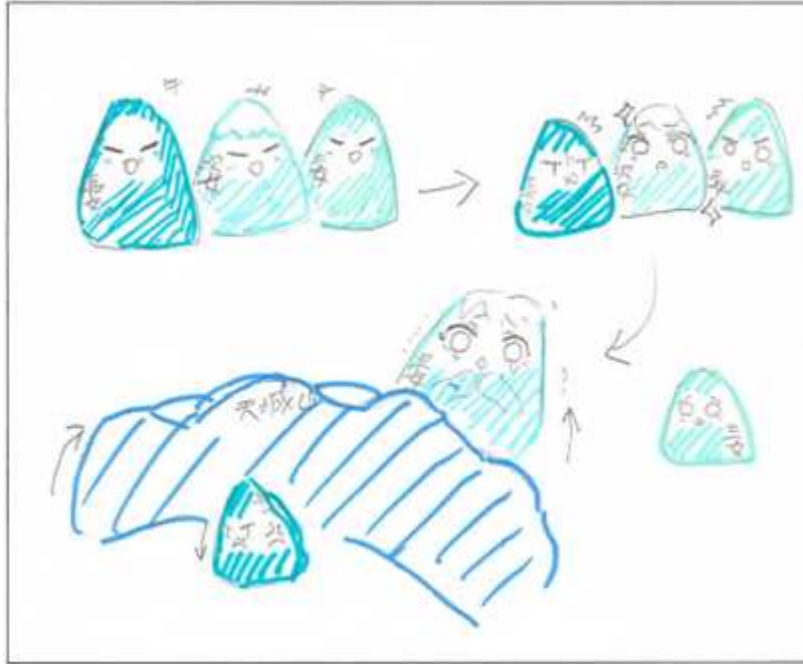


了仙寺は「開国のまち」下田を語るうえで最も重要な場所。1854年、日米和親条約が結ばれ、下田の開港が決まると、ペリー提督率いる一行が下田に来航。この了仙寺で和親条約の細かい取り決め、すなわちアメリカ人がまちを歩くときの規定や買い物の方法などが定められ、これが地元住民と外国人の異文化交流の基盤となった。

毎年5月中旬に、下田の一大イベントである黒船祭が開催されている。黒船祭は、日米友好の証として昭和9年(1934年)にスタート！この了仙寺では、日米和親条約調印をおもしろおかしく描く再現劇が行われる。この他にも、記念式典やパレード、海上花火大会、米軍第七艦隊音楽隊による演奏会、大道芸、着物ファッションショーや食べ歩きが楽しめる「開国市」なども開催され、毎年20万人近い人でにぎわう。

また了仙寺は「ジャスミン寺」としても有名。数百株のアメリカジャスミンが植えこまれ、満開となる5月中旬から下旬には、周囲が甘い香りに包まれる。

下田富士の伝説（下田市）



下田富士は、富士山と八丈富士と姉妹だった。下田富士が長女、富士山が次女、八丈富士が三女だった。

最初は仲がとても良かったが、しだいに富士山が美しくなった。下田富士は丸くはれたぼたもちのような顔だったので、悲しくなり、天城山を立て、こもってしまった。

心配した富士山はつまさき立ちをしていたら背が高くなり、日本一の高さになったが、下田富士は姉に見られまいと、さらに低くなった。

「日本一」の 下田温泉!! (下田市)



- 下田市内には、代表的な温泉が5つ（蓮台寺温泉、河内温泉、白浜温泉、観音温泉、相玉温泉）あります。蓮台寺温泉は、歴史が古く、開湯1300年前（奈良時代）といわれています。
- 下田市内は、毎分5500 L湧出しています。蓮台寺駅の近くにある金谷旅館には、日本一広い総檜大浴場があります。

高根山の高根地蔵様（下田市）

山頂から見える海。



広く見渡すことができる。



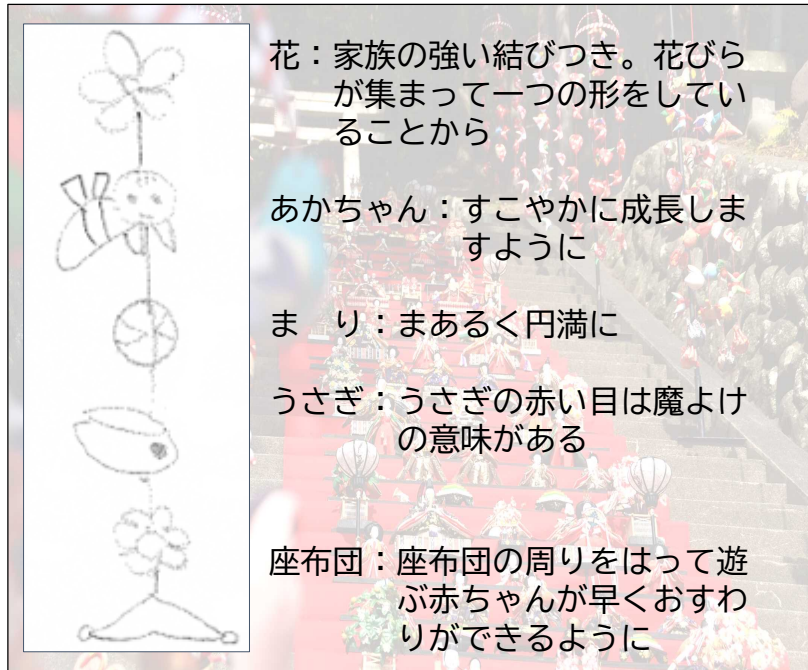
- 『まんが日本昔ばなし』にも登場する民話。河内の向陽院の縁の下から出てきた、あまり美しいとはいえないような石の地蔵さまが住職の夢枕に、河内と白浜の境の高根山の頂きに自分を立てるようにとお告げをしました。住職と村人がその地蔵さまを高根山の頂きにたてると、様々な災害や船の事故から人々を救ってくれました。
- 白浜では、毎年1月24日に「高根まつり」が行われ、地域の人や、海の仕事を人、白浜小の児童、県外の人など、多くの人々が参加し、高根地蔵様をおまつりしています。
- 山頂には小さなお堂があり、お地蔵さまが多くまつられていますが、本物のお地蔵さまは、昔に行方不明になってしまっています。

静かにたたずむ謎の石（東伊豆町）



- 昔、付近の海岸はサザエやアワビの宝庫であったため、漁場を巡った争いが絶えなかった。それを見ていた天城山の天狗が石を運んできて漁場を分けたことで争いが収まったとされている。
- 本当は、20万年前ごろまで活動していた天城火山の溶岩波の浸食を受けて、大きな岩が小さな岩を挟みこむ奇岩を作り出した。

118段の石段に並ぶひな人形（東伊豆町）



花：家族の強い結びつき。花びらが集まって一つの形をしていることから

あかちゃん：すこやかに成長しますように

まり：まあるく円満に

うさぎ：うさぎの赤い目は魔よけの意味がある

座布団：座布団の周りをはって遊ぶ赤ちゃんが早くおすわりができるように

- 東伊豆町には、神社の石段118段にひな人形とひなのつるしかざりが2月から開催される「ひなのつるしかざり祭り」で展示されています。
- ひなのつるしかざりの人形には、一つ一つ思いが込められていてそれぞれの形に幸せをいのるさまざまな思いがあります。
- 毎日、イベントの方がおひなさまを並べ、片付けます。

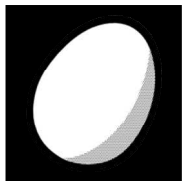
伊豆の踊子（河津町）



『伊豆の踊り子』は、川端康成が書いた伊豆の旅をモデルとした短編小説です。このお話は、孤独を抱えている青年が、踊子の少女に淡い恋心を抱く、青春物語です。身分の違いと孤独の憂鬱の中の恋が表されていて、計6回映画化されるほど人気です。

河津はこのような踊子の文化を大切にしており、踊り子温泉会館のように名前に入っている観光スポットも多いです。また駅前、河津七滝のように、踊子と青年の像が立っているところもあります。銅像めぐりをして面白いかもかもしれません！

河津町の鳥精進・酒精進（河津町）



伝説の由来の来宮神社にある大楠

- 河津町では、毎年12月18～23日に、川津来宮神社の氏子を中心に「鳥を食べない・卵を食べない・酒を飲まない」という鳥精進酒精進が守られており、この禁を破ると火の災いに遭うと信じられています。今でも、給食のメニューから、鶏肉、卵が外されるなど風習が守られています。
- この風習は杉柙別命（すぎこわけのみこと）という男神が泥酔して眠ってしまったところ野火に囲まれ、危ういところを鳥たちに助けられたという伝説に由来しています。

伊豆最南端からの富士（南伊豆町等）



伊豆の最南端である南伊豆町・西伊豆町・松崎町には、伊豆西南海岸がある。伊豆西南海岸は、富士箱根伊豆国立公園の一部として国から指定されている。

美しい自然と風土を感じられ、西南海岸から駿河湾越しに富士山が見られる。

← 駿河湾越しの富士山（松崎町）

弓ヶ浜（南伊豆町）



- 南伊豆町の「湊区」にある弓ヶ浜。全長「1200m」の砂浜です。
- 周りには、松林が広がっており白い砂浜と松林、青い海との調和が美しい砂浜です。「砂浜の形が弓のように湾曲して広がる長い海岸線」から弓ヶ浜という名前がきています。
- 「日本の渚100選」、「日本の白砂青松百選」、「快水浴場百選」に選ばれています。
- アカウミガメの産卵地です。弓ヶ浜ではアカウミガメの卵がふ化するまで小屋に移して保管する取り組みを行っています。
- マリンスポーツが盛んで、体験スクールを行う企業があります。小学生がシーカヤック体験を行っています。

生産量日本一!松崎町の特産「桜葉」(松崎町)



生産量日本一で松崎と言ったら
“桜葉”と書いていいほど松崎のお
みやげやお店などで使われています。

また、マスコットキャラクターと
して“まっちー”という“桜葉・
桜”をモチーフにしたキャラクター
もいたり、桜葉は松崎の人にもい
ろいろなところで幅広く知られてい
ます。

しっくいを使った「なまこ壁」(松崎町)



- なまこ壁は、建物の壁面に平瓦を貼り、目地にしっくいをかまぼこ型に盛り上げてぬり、なまこのような形状をしていることから名付けられた。
- セメントや建築用ボードがなかった時代、なまこ壁は強風や大雨、火災などから人々の暮らしを守ってきた。

なまこ壁→
←なまこ壁通り



塩かつおの歴史（西伊豆町）



- 1000年以上も前から保存食として加工されてきて、平安京の税として納められていた。
- 一本干ししたかつおのことを「正月魚」とよんで、縁起物として大切にされていて、三が日には神棚に飾っていた。航海安全と豊漁豊作、子孫繁栄を祈願して供えていた。
- 塩かつおを使ってつくった塩かつおうどんがある。

田子のろこぎ（西伊豆町）



「櫓」は、鎌倉時代までに中国から日本に伝わったとされ（諸説あり）、その後、江戸時代の前期までに少しずつ改良されてからは、現代までの約400年もの間はほぼ同じ形状を保っています。

田子は昔、カツオ漁業で栄えた町でした。

櫓が使われるのは主に伝馬船と言われる岸と沖合で船舶している大型船との連絡網でした。

櫓を漕ぐのは新人の仕事で、巧く漕げれば漕げることが、勲章でもありました。